

令和3年度第1回芽室町男女共同参画審議会

令和3年10月27日(水)19:00~20:05

庁舎2階会議室7

出席委員(8名)

嶋野会長、山田副会長、大塚委員、伊藤委員、柴田委員、高野委員、西村委員、武藤委員
事務局

石田政策推進課長、佐々木政策推進課長補佐兼政策調整係長、角屋主事

開会

会長・副会長選出

政策推進課長補佐

条例により議長は会長が務めることになっているため、ここからの進行は会長にお願いしたい。

会長

それでは、議題に入る。(1)第3期芽室町男女共同参画基本計画の概要について事務局より説明をお願いします。

事務局

第3期芽室町男女共同参画基本計画に沿って説明。

会長

今の説明に対し、質問等はないか。

委員

(なし)

会長

続いて、(2)男女共同参画に関する取り組み実績について、事務局より説明をお願いします。

事務局

資料に沿って説明。

会長

今の説明に対し、質問等はないか。

委員

アンケートの手法については、グーグルフォームを使用したとの説明があったが、以前はどのような手法で行ったのか。

政策推進課長補佐

前回このようなアンケートを実施してからかなりの時間がたっている。今回アンケートの実施にあたっては、他市町村で実施しているアンケート内容を参考にして設問をした。回答方法については、回答のしやすさや集計のしやすさから、QR コードを読み取るような形で実施をした。

委員

毎年アンケートを行っていくのか。

政策推進課長補佐

毎年アンケート行うことで、大きな変化がみえてくるとは考えていないため、5年スパンくらいでアンケートを行いたいと考えている。

委員

アンケート結果の15ページ目、自由記述において、『「男女共同参画の推進」の必要性がわからない』と答えている企業に対して、どのような手立て、対策を考えているのか。

政策推進課長補佐

このように回答された企業からの問い合わせとは限らないが、「質問の意図がわからない」との問い合わせがあり、その対応の中で、「そもそも男女だからという区別をしていなく、能力で人材の登用と昇進を行っている」と回答され、そもそも質問自体がナンセンスなのではないかと事業所から指摘をいただいた。このようなことから、必要性がわからないと回答したのではないかと予測している。

会長

他に質問がなければ、委員の皆様からそれぞれ意見をいただきたい。

委員

男女共同参画と言えば、女性は社会進出を行い、男性は家事等に参加するというイメージがあ

るが、少子高齢社会の中で、女性には子供をたくさん産んでほしい、社会に進出してほしいということは難しいのではないか。

委員

オリンピックでも話題となった、会議の中の女性参加率等、マスコミやメディアに取り上げられると、少しは男女共同参画について考えると思うが、芽室町という身近で考えてみると、男女共同参画は難しい問題なのではないかと思う。小さな町では、小さな企業も多く男女を隔てなく活動している企業が多いと感じる。実際に、様々な会議に参加している女性も多いため、男女共同参画を考える場面が少ない。考えるきっかけを与えるためにも、男女共同参画審議会の内容やアンケート結果を町民の方々の目に触れる機会を増やしてほしい。町の LINE もあるので、何か男女共同参画について発信できるのではないか。また、男女共同参画の発信が増えることで、アンケートの回答率も自然と増加するのではないか。

委員

女性の考え方を変えていくことも必要だが、長年続く、男女に関する日本の古い考えが存在していて、いきなり考え方を变えるのは難しいと感じる。また、各会社の管理職の中には、「女性だから」とか「女性はすぐ辞めるだろう」と考えている人もいて、かなり時間のかかる問題だと思う。他の委員も言ったように、このような審議会の存在を発信するところから始めるべきではないか。

委員

私達たちの世代は、男性優位という考え方を持っている人がいて、前に出ることが苦手な女性が多いように感じる。また、オリンピック開催時期には、ジェンダーについて話題となり考える機会もあったが、男女共同参画を理解するためには、受動的ではなく、自ら勉強する必要があるのではないか。

委員

横文字のような難しい単語を並べるのではなく、伝わりやすい、年配の方にも配慮した手法で男女共同参画の取り組みを町民に発信すべきではないのか。また、あるべき社会は「男女等関係なく、すべての年代の人がいきいきとしている社会」だと発信していくことが審議会の役割なのではないか。

委員

能力のある女性が子育て等により、社会に進出したくてもできない現状がある。その問題を解決するには、男性も女性も意識改革が必要だと思う。「男女共同参画」と難しい文字が並んでいるが、気軽に考えることのできるような仕組みづくりや情報発信を行うことで、家庭と社会

進出の両立ができるようになるのではないかと。

会長

以前参加した、講演の中で、『「公私混同マネジメント」が大切』という話があり、子育てや介護の状況を本人の周りの人が把握する必要があり、介護や子育てをしているのかしていないのか上司や同僚が状況を把握していると出勤・退勤時間への理解、受け取り方が変わり、育児や介護のしやすい環境になるという内容であり、大変共感した。先進事例として、育休取得100%の企業では、子どもが生まれる1か月前から会社が本人へ育休の働きかけを行っている例がある。会社側から働きかけがあると、育休も取得しやすくなり、特に男性が育休を取得すると、育児の大変さを学び、現場復帰した後も育児をするために働き方を変えるのではないかと。また、今後、介護もしなければいけない人が一層増えてくると思うので、育児と同様介護しやすい環境づくりも重要である。また、男女共同参画に関する規定がないという事業所が多いが、介護や子育てを経験した職員がソフト面で今後子育てや介護を経験する職員を支えることで、社風が変わり規定を作るきっかけになると思うので、委員の皆様には、勤められている会社の職員の方々に寄り添ってもらいたい。働きやすい芽室町にするためにも、先進事例を収集して、周知・共有していくことで町の雰囲気も変わっていくのではないかと。

会長

他に意見はあるか。

委員

(意見なし)

会長

それでは、本日の議題はすべて終了となる。最後に、事務局より連絡をお願いします。

事務局

次第に沿って説明。

会長

以上をもって、本日の審議会は終了となる。お疲れさまでした。

(20:05 終了)